

オフィス町内会



会報 花まつり号

発行日 平成15年3月31日
発行所 オフィス町内会事務局 代表 半谷泰寿 東京電力
連絡先 TEL03-3547-6114 東京都港区芝浦4-6-14 東電環境エンジニアリング社内
オフィス町内会事務局 東京電力 代表 半谷泰寿 東京電力
編集 オフィス町内会事務局 副代表 豊田恵志 内田道昭 エーランチ

My リサイクル

2つのリサイクル 紙のリサイクル 森のリサイクル
2つのキーワード 白色度70クラブ 第4回ミーティング



確かに臭気もなく、工場内は建物の中も外も実にクリーン。気持ち良く見学ができる環境でした。



また、王子製紙ではゼロエミッションを目指し、2010年までに同社の全17工場が最終処分率0・5%以下になるよう取り組んでいます。すでに12の工場では目標をクリアしています。そのうち、8つの工場では、より高い目標をクリアして最終処分率0・1%以下(実質ゼロ)の「ゼロエミッション工場」となっています。

また、王子製紙ではゼロエミッションを目指し、2010年までに同社の全17工場が最終処分率0・5%以下になるよう取り組んでいます。すでに12の工場では目標をクリアしています。そのうち、8つの工場では、より高い目標をクリアして最終処分率0・1%以下(実質ゼロ)の「ゼロエミッション工場」となっています。

リサイクルペーパー 最前線

王子製紙 春日井工場

再生紙づくりの現場を見学するために、王子製紙株式会社・春日井工場を訪ねました。戦時中の兵器工場跡地を利用してつくられた周囲4キロメートルの工場には、最新技術を結集した設備がそなわり新聞紙以外のあらゆる紙がつくられています。同工場・環境管理室の小林英生室長と高橋元さんに案内をしていただきました。



そのためには古紙に印刷されたインキを除去する脱墨パルプ設備の増強をはかり、古紙パルプ生産能力をさらに高めていく必要があるということです。

王子製紙春日井工場の古紙パルプ生産能力は1日495トン。敷地内の集積場に行ってみると、1トン毎にまとめられた新聞古紙が見渡す限りに置かれていました。いったい、何方月分の古紙だろうかと思ってしまうと、わずか4日分くらいとのことでした。王子製紙では現在、生産しているすべての製品に占める再生紙の割合は60%強ですが、2010年までにこの比率を70%にまで高めることを目標としています。とくに、これまで古紙利用率の低かった印刷情報用紙(コピー用紙等)など洋紙の分野の古紙利用率を高めることが課題とされ、



万全の環境保全対策とゼロエミッション

春日井工場は名古屋と隣接した都市型の製紙工場であるため、公害防止、環境保全の対策は早くから万全の対策がとられてきました。



資源に生まれ変わる工場廃棄物



ゼロエミッションを目指すために、王子製紙では廃棄物の有効利用につとめています。製紙工場ではペーパーラジックと呼ばれる汚泥が発生しますが、このままの状態では、堆肥など有効利用できる用途が限られます。そこで、専用の焼却炉で減容し、灰を建材やセメントの原料にリサイクルしています。

また、CO2削減のひとつの方策として、化石燃料に代わる燃料の使用率を高めることに取り組んでいます。木材からパルプをつくる時に回収される黒液を主体に多くのバイオマス燃料を使用し、さらにRPF(ゴミ固化燃料)の使用拡大を地球温暖化対策の柱として位置づけています。2001年のRPF使用量は約1万4000トンでした



考え続けること 取り組む続けること

わずかに1日の見学では、再生紙づくりの現場を見聞しつくすことはできませんでしたが、同社の環境レポートには、環境負荷を軽減するさまざまな取り組みが紹介されています。

また、ホームページでも詳細情報にアクセスできます。 <www.jpipaper.co.jp>

今回の見学を案内してくださった小林室長・高橋さんは「環境やリサイクルの問題は、一つの視点だけで是非を決めつけることはできない」と言います。たとえば再生紙のあり方にしても、古紙の有効利用やゴミ減量化の視点からは良いことだが、

だからといって再生紙が万能だったたり新しいパルプからつくる紙を否定することにはならず、製紙事業は「紙のリサイクル」と「森のリサイクル」を両輪として資源循環型産業をめざしていかなければならないということです。リサイクルも環境問題も、考え続けること、取り組み続けることが肝心、と工場見学で改めて学びました。

第十一回 町内会だより

製紙産業の仕事をご存知ですか? 森をつくる紙をつくる

日本製紙連合会 副理事長 渡邊恒

紙の原料は、二つに大別できます。ひとつは、古紙、もうひとつは、木材です。日本の古紙利用率は60%近くに達していて世界でもトップクラスの水準になっています。紙は、それ自体が紙の原料にできるリサイクルに適した製品です。しかし、回収には限界があります。再生を繰り返すと繊維が劣化していくので、紙を作るには新しい木材パルプの投入が必要になるのです。ところで、紙の原料となるのはどんな木材だと思いませんか? 木の幹や大きな丸太を思い浮かべる人もいるかもしれませんが、紙に使われるのは丸太を製材したときに残る端材



たの木や、建築用には使えない曲った木、あるいは家の解体材です。つまり、紙にしなければ廃棄物となる木材をムダなく上手に有効活用しているのです。そして製紙産業では森との共存を図っていくために、持続可能な森林経営の考えに基づいた植林を行い、原料を育てる取り組みも行っています。現在、日本の製紙会社が保有する



アカシア、ラジアータ松等ですが、限られた土地を生かして製紙に適した優良な木を得るために、バイオ技術や遺伝子工学を用いた品種改良や挿し木の方法の実用化を行っています。こうしてみると製紙産業は、森林産業でもあるわけです。また、CO2削減の取り組みとしては、木材からパルプを作る際には、繊維を取り出した後にリグニン(黒液という成分が残りますが、これをきちんと回収して紙を作る際の燃料や化成品の原料として使っています。このエネルギーは、製紙産業が使用する全エネルギーの30%を占めています。豊かで健全な森林は、私たちの地球の大切な財産です。私たちの森が減少することは、製紙産業にとっても大きな損失です。だから「森のリサイクル」と紙のリサイクル。これを2つの柱として環境を守りながら私たちの生活に欠かすことのできない紙をお届けしていきたいと考えています。



